「河川技術・流域管理分野 提案型課題（流域課題）」
（令和3年度採択）

事後評価結果

<table>
<tr><td>研究テーマ名</td><td>研究代表者</td><td>評価</td></tr>
<tr><td>小丸川水系渡川ダムの堆積土砂を有効利用した流域土砂生産抑制による新しい総合土砂管理の検討</td><td>宮崎大学　入江　光輝</td><td>B</td></tr>
<tr><td colspan="3">＜研究概要＞
小丸川水系渡川ダムは細粒土砂の堆積が著しい。一方、人工林が中心の集水域では斜面崩壊地が土砂の発生源となっている。そこで、本研究では貯水池底泥を原料としたセラミックスを作製し、土砂流出抑制の資材としての利用を検討する。一つには底泥セラミックスを充填した蛇篭と土嚢を使用し、低コストの森林作業道の侵食抑制をはかる。あわせて人工林の速やかな更新のための育苗用資材を底泥を有効利用した同材料で作成する。これらで土壌資源を流域還元する総合土砂管理手法を構築する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">＜事後評価指摘事項＞
ユニークでチャレンジングな研究であったが、実現可能性や有用性に関する検討がやや不足していると感じる。また、堆積土砂の再利用による土砂生産抑制の効果については、必ずしも十分に明らかにされていない。継続した取り組みが望まれる。</td></tr>
</table>

※評価基準
Ａ：研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
Ｂ：一定の研究成果があった。
Ｃ：研究成果があったとは言い難い。